都市人間環境学専攻

Civil, Human and Environmental Science and Engineering Course



中央大学大学院 理工学研究科

Chuo University, Graduate School of Science and Engineering

4つのコース

- 📙 「都市・国土」コース
- 📕 「人間」コース
- ■「環境」コース
- 「国際水環境」コース

行動する知性。



社会的背景と趣旨



21世紀の最重要課題は、地球環境と人間の健康の両立です。気候変動や都市化に伴う環境変化、世界的な人口増大に伴う水問題、エネルギー問題、食料問題等の課題解決には、今後の科学技術研究が「有限な地球環境の持続可能な発展」を基本に据えた上で、その枠組の再構築を行いつつ、新しい科学技術の開発を行うことが求められています。

このような背景の中で、中央大学大学院理工学研究科都市環境学専攻は、安全・安心な国土都市づくりを目標とし、社会基盤整備・計画マネジメントにおいて時代を先導する研究開発を行い、多くの技術者・研究者を輩出してまいりました。また、地球環境の時代における新たな技術開発と、国ごとの歴史・文化・風土を尊重する国際的視野をもった専門家を育成するために、2010年「国際水環境理工学人材育成プログラム」を創設し、推進してまいりました。

一方、自然環境との共生、エネルギー問題への取り組み、そして何よりもそこに暮らす人間の「生活の質」への科学的アプローチが社会基盤整備の基本にあるべきという理念から、2013年、理工学部において人間総合理工学科が創設されました。現在、人の健康と生活の質の向上を目標とする「ヒューマン・ウェルネス」、自然との共生をめざす「人と環境」、そして次世代の水・エネルギー問題を解決するための「環境とエネルギー」の研究と教育が、鋭意、進められております。

持続可能な社会の実現に向けては、社会基盤整備の科学技術体系に、人間の視点と自然との共生を実現していくための科学的方法論を導入し、二者の融合により先端的研究領域を創出していくことが不可欠であると考え、二つの学科が協力し、大学院カリキュラムの充実を図って参りました。

このような理由から、2017年度より都市環境学専攻は都市人間環境学専攻として装いを新たにし、 大きな飛躍を目指します。

教育理念

都市人間環境学専攻では、次の3点を教育の理念として人材を育成します。

- 1) 地球環境の持続可能な発展に向け、社会基盤、都市環境デザイン、水環境、自然共生、エネルギー、 ヒューマン・ウェルネスの専門的な知識、技術を修得し、国際社会で活躍できる人材の育成を目指し ます。
- 2) 安全・安心な環境の形成と、そこに暮らす人間の生活の質を高め、健康長寿社会を実現するための 専門的な知識、技術を修得し、一人ひとりの人間の尊厳を踏まえた社会的活動を行うことができる人 材の育成を目指します。
- 3) 都市人間環境学の基本的知識、技術、生命倫理を修得することにより、新しい領域を切り開いてい くことができる人材の育成を目指します。

都市人間環境学のヴィジョン



都市・国土 安全・安心な都市・ 国土の基盤形成

- ・インフラの長寿命化
- ・アセット・マネジメント
- ・防災・減災手法の開発と 展開
- 災害に対するレジリアン ト・システムの構築
- ・リスクマネジメント





人間

ヒューマンウェルネス

- ・健康まちづくり
- ・ライフデータ・サイエンス
- ・スポーツ・サイエンス
- ・認知脳科学情報の活用

豊かな人間性を育む都市 ・地球環境の創造

環境

自然共生・循環型・ 低炭素社会の実現

- ・自然共生・流域圏モデル の構築
- ・生物多様性の保全・育成
- ・再生可能エネルギーの技 術開発
- ・低炭素化社会に向けた計 画マネジメント
- · 次世代型交诵計画

国際水環境

世界・アジアの水環境マネジメント

- ・水環境・水処理に関する高度技術開発
- ・歴史文化風土を尊重する地域づくり
- ・水災害へのリスクマネジメント





沿革

1949年 工学部土木工学科新設(駿河台校舎)

1953年 大学院修士課程土木工学専攻設置

1955年 大学院博士課程土木工学専攻設置

1962年 工学部を理工学部に改組

1963年 理工学部を後楽園キャンパスに移転

1967年 大学院工学研究科を理工学研究科に改組

1997年 土木学会年次学術講演会(土木学会全国大会)を開催

2009年 理工学部土木工学科から都市環境学科へ名称変更

2010年 国際水環境理工学人材育成プログラム創設

2013年 理工学部人間総合理工学科新設

2013年 大学院理工学研究科土木工学専攻から都市環境学専攻へ名称変更

2017年 大学院理工学研究科都市環境学専攻から都市人間環境学専攻へ名称変更

カリキュラムの特長

4つのコース

■「都市・国土」コース

専門知識や情報技術などを駆使して具体的な構造物、時空間環境を計画・設計できる、また防災の知識を社会に還元できる高度なエンジニアの育成を目指します。

| 【人間」コース

人の豊かさや感性、健康、思考、行動様式等を学び、安心安全な社会の実現を目指した科学者、技術者の養成を目指します。

■ 「環境」コース

社会科学や統計学の知識を有し、異分野の専門家や市民と協働で地域または地球規模の環境・エネルギー問題を解決しながら、地域をマネジメントできる人材の育成を目指します。

■ 「国際水環境」コース

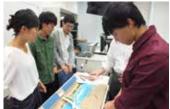
我が国の産業界と行政の風土ならびにその利点に習熟し、かつ国ごとの歴史・文化・風土を尊重する国際的視野を持った高度専門職業人としての水環境・水処理技術者の育成を目指します。



河川の水質計測



保全生態学の野外実習



橋梁デザインの演習



演習指導での成果の説明

多様な学生、研究生等の積極的な受け入れ

大学内の推薦入学試験、及び春夏2回の入学試験を実施している。また、外国人、社会人、他大学出身者に対しても別途の入学制度を実施しており、多様な人材を大学院に受け入れている。さらに、企業からの研究生や海外の大学の研究者なども積極的に受け入れている。

開かれた教育、研究体制

多くの学生に国内外における研修、学会や研究会での発表の場を積極的につくり、大学の外でも幅広い知識を身に付けることが出来るよう努めている。このような教育・研究環境から毎年50名以上の修士が、そして1973年度以来2015年度までに131名の博士がが生まれています。



オープンキャンパスの1コマ 空気の力で浮遊するボールを展示

修了後のイメージ、在学生および修了生の声

想定される修了後の進路

- ●官公庁、国際機関、研究·教育機関
- ●都市·不動産開発、デヴェロッパー、ゼネコン、設計事務所
- ●シンクタンク、まちづくりコンサルタント
- ●コンピューター、金融、保険
- ●観光産業
- ▼マーケティング、食品・外食産業

- ●水処理メーカー、化学メーカー、エンジニアリング・メーカー
- ●マスメディア
- ●医療関係:審査機構(PMDA)、医薬品・医療機器・食品 産業、臨床試験受託会社(CRO)、大学病院等 の医療機関、医療保険者やコンサルティング 会社

涛

理工学研究科 都市環境学専攻 博士前期課程 2年次在学中 中国 河海大学出身



大学院に入る前、研究には難しい イメージがありました。入学後、や はり研究は難しいと感じています。 実験データの整理と方程式を理解す ることは大変ですが、実験データと 方程式が何を語っているのかを理解 することはもっと難しいです。しか し、難しいことをやっていくうちに 物事の見方は易しくなります。

自然と人を含む世の中のすべてのこ とは、運動と力を結ぶ法則が違うだけ で、本質的には同じです。外からの力 に応じて物事は反応し、変化し、そし て動きます。その力の正体を解明し たり、その変化、動きを正確に捕らえ、 表現したり、また力と運動の関係を推 測、発見、検証することが研究です。

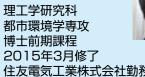
大学院の研究はこういった内容を 自分が主体となって考えたり、勉強 したり、他の人とディスカッション したりしながら、難しいことをやり 抜けることが重要です。そして、そ のプロセスは一生の宝物になります。

笹岡 里衣

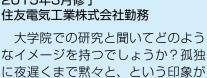
理工学研究科 都市環境学専攻 博士前期課程 2016年3月修了 鹿島建設株式会社勤務

博士前期課程の2年間は学士課程 の半分の時間にもかかわらず、それ 以上に濃密で充実していた日々でし た。この要因は様々なことに挑戦し、 その度に新たな発見や気づきの連続 だったからです。例えば、修了研究 では日々の実験に加えて、現地調査 に行ったり、国内外の学会で発表し たり、卒業研究では経験できなかっ た多くの機会に恵まれました。これ らは研究を前進させることはもちろ ん、自分自身の強みや弱みを知り、そ れを改善するきっかけとなりました。 博士前期課程は専門的な知識や技術 を得るだけでなく、プランニング能 力やコミュニケーション能力など、 社会に出た際に間違いなく必要とさ れるスキルを訓練する機会になるは ずです。皆さんも研究を通して新た な自分に出会いませんか?

松本岳



先行するかもしれません。



実際はその逆で、他者と共に問題 解決へ向けて試行錯誤する場合が大 半でした。自身の知識蓄積は言うま でもなく必要ですが、問題解決には 他者の協力が不可欠です。協力を得 るには、自身の考えを整理し、正確に 相手に伝え、説得する能力が必要で す。研究を通して、その能力を飛躍 的向上させられる機会に多く出会え ると思います。時には一人で悩み苦 しみながら、時には家が建つ金額の 装置を使いながら、知識の塊である 教授や一芸に秀でた友人と共に問題 解決していく。大学院での研究を通 して、その様な貴重な経験ができる と断言します。



中央大学2015年度国家公務員採用総合職試験合格祝賀·激励会 本学合格者58名のうち、都市環境学科・専攻から10名が合格しました。

有川 太郎 教授・博士(工学)

Taro Arikawa



■ 学位(取得大学): 博士(工学)(東京大学)

■ 専門分野:海岸工学

■ 担当科目:海岸水理学、沿岸防災学、沿岸防災工学研究

■ 学会・学外等の活動:土木学会、日本建築学会、日本地震工学会

■研究内容のキーワード:沿岸防災、津波、高潮、避難、波力、砕 波

■ 指導学生の研究テーマ:

- ●沿岸域における堤防の役割と粘り強さ
- ●津波、高潮、高波に関する数値計算技術の開発と可視化
- ●沿岸域の避難のあり方とシミュレーション技術の開発

石川 幹子 教 授・農学博士

Mikiko Ishikawa



■ 学位(取得大学): 農学博士(東京大学)
■専門分野: 環境デザイン、都市環境計画、ランドスケープ・デザイン
担当科目: 都市・地域環境計画、自然共生都市論、環境デザイン研究
■ 学会・学外等の活動: 日本都市計画学会、日本造園学会、土木学会、日本建築学会、各会員。全国約200の市町村の水と緑の計画・設計に 携わる。新宿御苑再生設計、各務原市水と緑の回廊計画などを担当。 東京都自然環境審議会委員、川崎市環境審議会委員、新宿区都市計画 審議会委員。宮城県震災復興会議委員などをつとめた。

- 研究内容のキーワード:自然共生型都市、流域圏プランニング、震災復興
 指導学生の研究テーマ:
 東京都心部におけるマトリクス構造を基盤とする熱風環境評価に基づく都市環境計画に関する研究
- 計画に関する研究 ●熱帯島嶼バラオ共和国における流域圏を基礎とするランドスケーブ・ブランニングに関する研究 ●仙南平野における文化的景観としての居久根の研究-東日本大震災後の保全への考察

大内 俊二 教授・Ph. D.

Shunji Ouchi



■ 学位(取得大学): Ph. D. (Colorado State University)

専門分野:地形学、環境論担当科目:地形変化と自然災害、地形学研究

■ 学会・学外等の活動:Geological Society of America、日本地球惑

星科学連合、日本地理学会、東京地学協会

■ 研究内容のキーワード:地形変化、自然災害、実験地形、地球環境

- 指導学生の研究テーマ:●降雨侵食と隆起による実験地形の発達
 - ●山地の発達と山崩れ
- ●河川形態の発達

大下 英吉 教 授・工学博士

Hideki Oshita



■ 学位(取得大学): 工学博士(名古屋大学) ■ 専門分野: コンクリート構造 ■ 担当科目: 材料科学論、非線形力学、コンクリート工学研究 ■ 学会・学外等の活動: 土木学会、日本コンクリート工学協会、非破 ■ 神体を持める

エバナス, ロアー・ 壊検査協会 :: コンクリートメカニックス, 熱力学平衡論, ■研究内容のキーワード:コンク 残存耐力, 非破壊検査

■ 指導学生の研究テーマ:
 ●鉄筋のミクロセル、マクロセル腐食に関する熱力学的モデル化とコンクリートの腐食ひび割れ予測手法
 ● RC 構造物の中性化、鉄筋腐食、変形連成解析モデルの構築

●鉄筋腐食したRC構造物の残存耐力メカニズムと耐力評価

大橋 靖雄 教 授・工学博士

Yasuo Ohashi



■ 学位(取得大学): 工学博士(東京大学)
■ 専門分野: 疫学、生物統計学
■ 担当科目: 健康とリスク解析の統計学、疫学方法論と応用、都市人間環境プロジェクト第三
■ 学会・学外等の活動: 日本計量生物学会(会長)、日本臨床試験学会(代表理事)、NPO日本臨床研究支援ユニット(理事長)、NPO日本メディカルライター協会(理事長)、(社団)日本保健情報コンソシウム(理事長)、スタットコム(株)(会長)

■ 研究内容のキーワード:臨床試験、疫学、生物統計学、臨床試験、健康食品、疾病予防、保健情報システム

教 授・工学博士 鹿鳥 茂

Shigeru Kashima ■ 学位(取得大学): 工学博士(東京工業大学)



専門分野:交通計画担当科目:離散選択モデル、交通制御、都市交通環境解析論、輸送

システム、交通工学研究 ■ 学会・学外等の活動:交通学会、環境アセスメント学会、日本ロジ

スティックシステム学会、日本都市計画学 会、計画行政学会、エネルギー資源学会

■ 研究内容のキーワード:交通調査の精度、交通流論、事後分析、理想都市、新交通シ ステム、交通事故

■ 指導学生の研究テーマ:

過号子子の所ため、 ●生活道路における共存性(修士) ●自動車関連事故の発生件数、被害数、損失額の統一的推定法(修士)

●観光客を対象とした地震防災対策の作成(博士)

和男 教 授・工学博士 樫山

Kazuo Kashiyama



学位(取得大学): 工学博士(中央大学)
 専門分野: 計算力学、土木計算科学
 担当科目: 偏微分方程式と数値解析、海外特別研修、理工学英語セミナー I・II、計算力学研究、環境・生命工学概論
 学会・学外等の活動: 土木学会、日本計算工学会、日本応用数理学会、日本流体力学会、水文水資源学会、可視化情報と

■研究内容のキーワード:防災・環境シミュレーション、自由移動境界問題、マルチスケール解析、バーチャルリアリティ

スケール解析、パーチャルリアリティ
■指導学生の研究テーマ:
●有限要素法に基づく2次元・3次元津波解析とそのハイブリッドモデルの構築
● VR技術を用いた津波擬似体験システムの構築
● VR技術に基づく視覚・聴覚情報を用いた対話型道路交通騒音評価システムの構築

教 授・博士 (救急救命学) 力 Tsutomu Komine



■学位(取得大学):修士(体育学)(日本体育大学)、博士(救急救命学) (国士舘大学)

(国工品人子)専門分野: 救急救命学、スポーツ医科学担当科目: 救急救命システム論

■ 学会・学外等の活動:日本救護救急学会(副会長)、日本海洋人間学会・開会長)、日本海洋人間学会(副会長)、日本海洋人間学会(副会長)、日本臨床救急医学会

■ **研究内容のキーワード**:救急救命、ライフセービング、スポーツ科学、ヒューマン

● Water safety(Drowning Prevention)に関わる自然・人文・社会科学からの解析 ● ヒューマンウエルネス (アスリート競技力強化含む) に於ける生理・心理的指標の

●運動中の突然死の予防と対応に於けるスポーツ救急救命学からの解析

教 授・工学博士 邦夫

Kunio Saito

■ 学位(取得大学): 工学博士(東京工業大学)

■専門分野:地盤工学/地盤環境工学

■担当科目:基礎の破壊と安定性、地盤環境評価論、地盤環境工学研

究、環境・生命工学概論

■ 学会・学外等の活動:廃棄物、リサイクル、埋立て、安定性、遮水、地盤振動

■ 指導学生の研究テーマ:

- ●「急勾配化された廃棄物斜面の安定性評価」
- ●「せん断履歴を考慮した透水試験装置の開発」
- ●「泥水掘削溝壁の安全率に及ぼす泥水位ならびに溝形状の影響」

尚次 教 授・工学博士 佐藤

Naotsugu Sato

Masayoshi Tanishita



- 学位(取得大学):工学博士(東京大学)

- 研究内容のキーワード:構造設計基準、性能設計、安全性、信頼性、最適設計、荷重論、シミュレーション、国際標準、ライフサイクルコスト、リスクマネジメント指導学生の研究テーマ:

- ●リスクを含むLCCによる防波堤設計の代替案比較法 ●災害時の施設信頼性と鉄道利用者の時間リスク ●コンクリートの塩化物イオン拡散問題におけるパラメータ感度解析

谷下 雅義 教 授・博士(工学)

■ 学位(取得大学):博士(工学)(東京大学)

■専門分野:都市工学

■ 担当科目:空間計量経済学、政策評価手法、ファシリテーション、

都市工学研究

■ 学会・学外等の活動: 土木学会、日本都市計画学会、日本不動産学会、

都市住宅学会

■研究内容のキーワード:持続可能な都市,空間情報,社会関係資本

■ 指導学生の研究テーマ:

- ●環境負荷削減施策評価のための土地利用・交通モデルの構築
- ●世帯人員間の相互作用を考慮した活動スケジューリングモデル
- ●空間的自己相関・分散不均一性を考慮した地価推定

一平太 教 授・博士 (学術)

Ippeita Dan



■ 学位(取得大学):博士(学術)(東京大学) ■ 専門分野:脳科学、認知神経科学、生物統計学、食品科学 ■ 担当科目: 松田 医科斯科学研究

学会・学外等の活動:fNIRS Society, Organization for Human Brain Mapping 等、Neurophotonics Associate Editor

■ 研究内容のキーワード: fNIRS、脳機能イメージング、サイコメトリクス、食生活、マーケティング

■ 指導学生の研究テーマ:

ョーディーター ●飲酒によるQoL(主観的生活の質)向上のモデル構築研究 ●機能的近赤外分光分析法のための確率的空間解析手法の開発

Computational Statistics in human brain mapping using Functional Near

教 授・工学博士 幡野 博之

Hirovuki Hatano

■ 学位(取得大学):工学博士(東京工業大学) 専門分野:化学工学、流動層工学、空調 担当科目:エネルギーシステムの合成と評価、 環境・エネルギーシステム、環境・エネルギー工学研究 学会・学外等の活動:化学工学会、日本粉体工業技術協会 研究内容のキーワード:固気系流動層、化学ループガス化・燃焼、 デシュント除温、アカセルギー解析 デシカント除湿、エクセルギー解析

■ 指導学生の研究テーマ:

毎毎チエル明九ノーマ・ ●多成分系固気系流動層内の粒子挙動 ●化学ループガス化・燃焼向け格子酸素キャリアの反応特性 ●固気混相系除湿空調を利用した超低露点空気製造

姫野 賢治 教 授・工学博士

Kenji Himeno



■学位(取得大学): 工学博士(東京工業大学) ■ 専門分野: 道路工学・舗装工学 ■ 担当科目: 道路舗装工学、交通施設工学、道路工学研究 ■学会・学外等の活動: 土木学会、地盤工学会、石油学会、情報処理 学会、情報文化学会、日本感性工学会、国際 アスファルト舗装学会 ■研究内容のキーワード: 舗装、道路、材料、環境、構造評価、路面評価、 平坦性、すべり、騒音、快適性

■指導学生の研究テーマ:
●繰返し載荷実験に基づくアスファルト混合物の変形および破壊挙動に関する研究
● Modification of Asphalt Mixtures by Recycled Tire Crumbed Rubber to Achieve their Higher Performance、2006
●小型 FWD 試験および表面波試験による舗装の構造評価に関する研究
●載荷条件の違いに着目したアスファルト混合物の被労挙動に関する研究

山田 育穂 教 授・Ph.D.

Ikuho Yamada

■専門分野:空間情報科学、空間統計学、都市空間解析、医療健康地 理学

■担当科目:応用空間情報科学、空間情報科学研究

■ **学会・学外等の活動**:地理情報システム学会、日本都市計画学会、 日本地理学会、Association of American Geographers、他

■ **研究内容のキーワード**:ネットワーク上の空間解析、時空間分析、都市のウォーカ ビリティ、都市環境と健康、健康まちづくり

■ 指導学生の研究テーマ:

● Prospective Space-Time Surveillance Method for Diseases with Expected Reporting Delays

駅周辺居住高齢者の近隣歩行を誘発・阻害する要素とその行動特性分析

山田 正 教 授・工学博士

Tadashi Yamada



■ 学位(取得大学): 工学博士(東京工業大学) ■専門分野:土木工学、水工水理学、流体力学、水文学、気象学

■担当科目:環境の数理とモデリング、水文・水循環、インターンシッ プ、水理学研究、環境・生命工学概論

■ 学会・学外等の活動:水文・水資源学会長、土木学会、日本自然災 害学会、国際水理学会

■ 研究内容のキーワード:水循環、水資源、防災・減災、危機管理

■ 指導学生の研究テーマ:

●都市熱環境の解明と降雨の予測精度向上に関する研究

●治水安全の向上に関する総合的研究

●閉鎖性水域における水質及び水循環問題の解明

鷲谷 いづみ 教授・理学博士

Izumi Washitani



■ 学位(取得大学):理学博士(東京大学)

■専門分野:生態学・保全生態学

■ 担当科目:生物圏システム学、水辺生物学、保全生態学研究

■ **学会・学外等の活動**:自然再生専門家会議委員長など各省の委員 会など多数

■研究内容のキーワード:生物多様性モニタリング 自然再生

■ 指導学生の研究テーマ:

●参加型生物多様性モニタリング

●ニホンミツバチの自然誌・生態と生態系サービスの評価

●森林域における鳥類多様性のセンサス

平川 大貴 准教授・博士(工学)

Daiki Hirakawa



■ 学位(取得大学):博士(工学) (東京大学)■ 専門分野:地盤工学、土質力学、地盤防災工学■ 担当科目:地盤動力学、地盤減災工学■ 学会・学外等の活動:地盤工学会、土木学会、国際ジオシンセティッ クス学会 ■ 研究内容のキーワード: 土の強度変形特性、土の締固め、地盤補強、

地盤防災

■ 指導学生の研究テーマ

●短繊維混合による礫質士の力学的性質の改善に関する研究

山村 寛 准教授・博士(工学) Hiroshi Yamamura



■ 学位(取得大学):博士(工学)(北海道大学) ■ 専門分野:環境工学、衛生工学、分離工学、相分離、高分子化学 ■ 担当科目:応用水環境システム工学、水環境制御論、インターンシッ 、環境・生命工学概論

学会・学外等の活動: International Water Association (IWA), 水環境学会、土木学会、化学工学会、水道協会、下水道協会

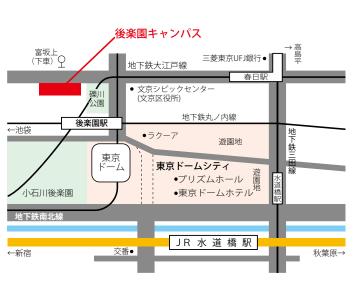
- 研究内容のキーワード:膜分離、ファウリング、Natural organic matter (NOM)、
- 指導学生の研究テーマ:
- 日毎チェン (1...) 凝集・販予過浄水プロセスの制御理論の構築 下水資源を活用した流域内における水- 食-エネルギー循環モデルの提案 カンボジア国ブノンペン都タモック湖周辺の都市開発における水質改善と水再利 用事業

2017年度入学試験日程(2017年4月入学)

	入試形態	前期課程	後期課程	入試要項公表日	個別資格審査 締切 ^{※1}	出願期間	試験日	合格発表
夏季	一般	0	0	2016/5/16 (月)	2016/5/31(火)	2016/6/17(金) ~6/23(木)	2016/7/9(土)	2016/7/15(金)
	社会人特別		○*2					
	推薦入学 特別選抜 (他大推薦)	0	1					
	自己推薦	0						
	外国人留学生	0	0	2016/6/15(水)	2016/8/22(月)	2016/9/30(金) ~ 10/6(木)	2016/11/7(月)	2016/11/11(金)
春季	一般	0	0	夏季実施分と 共通	2016/12/5(月)	2017/1/6(金) ~ 1/12(木)	2017/2/3(金)	2017/2/10(金)
	社会人特別		0					

詳細は、中央大学理工学研究科サイトに掲載の2017年度入試要項で確認してください。

- ※1 「個別資格審査」の対象者は入試要項にてご確認ください。博士前期課程出願の大学卒業(見込みを含む)、博士後期課程出願の大学院前期課程または修士課程等の修了(見込みを含む)の方は原則として該当しません。
- ※2 夏季実施の社会人特別入試(後期課程)合格者は2016年9月もしくは2017年4月に入学することができます。ただし、2016年9月 入学生は都市環境学専攻への入学となります。





都市人間環境学専攻

編集発行 中央大学 理工学部事務室 〒112-8551 東京都文京区春日1-13-27 TEL.03-3817-1740

URL: http://www.chuo-u.ac.jp 2016年5月発行